

昭和 14 年の干ばつ

昭和 14 年（1939）、香川県は田植えの頃から雨が少なく、干ばつに見舞われました。7 月 23 日に藤岡長敏県知事が滝宮天満宮（綾川町）で雨乞い祈願を、8 月 1 日には城山神社（坂出市）でも雨乞い祈願をし、さらに 3 日に県下一斉雨乞い祈願を行うほどでした。この干ばつを契機に、香川県は満濃池の増築、長柄ダム・内場ダムの建設などに取り組むことになりました。当時の飯山町（現丸亀市）の仁池と楠見池の様子をお伝えします。

■仁池（香川県丸亀市）

昭和 14 年（1939）は 7 月、8 月の降雨量が極端に少なく、8 月下旬には県下のため池に貯水がなくなり、仁池掛かりの地域も水に苦しみました。仁池では最後の配水について理事、水利監督などが協議し、上法（飯山町）と富熊（綾歌町）のどちらからかん水するかをくじで決め、上法が先になりました。8 月 28 日、29 日（24 日、25 日とも言われます）に上法地区は切り流しでかんがいすることができましたが、順番が後になった富熊の方へは配水できませんでした。待望の雨は 9 月 9 日に降り、それまで井戸水などで持ちこたえてきた稲は救われたものの、枯死した水田も多かったとのこと。<讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000 年>



■楠見池（香川県丸亀市）

昭和 14 年（1939）は梅雨入りより干天続きで、未曾有の干ばつとなりました。多度津測候所の降水量は 7 月 28.4 ミリ、8 月 5.3 ミリ、坂出では 7 月 15.7 ミリ、8 月 2.8 ミリと極めて少雨でした。県内各地で雨乞いが行われましたが、願いはなかなか通じませんでした。飯山町の楠見池掛りでは、わずかに池尻だけが収穫でき、それ以外は 9 月 9 日の降雨（岡田小学校観測で 41.5 ミリ）でも蘇生しませんでした。それでもこの雨は人々が待ちこがれたもので、飯野山東麓の三ノ池古墳には「昭和十四年九月雨乞成就 八大龍王」の碑が建立されています。飯野山で竜神に降雨を祈願していたことが分かります。<讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000 年、飯山町誌編さん委員会編「飯山町誌」1988 年>

